伊賀市埋蔵文化財ニュース

No.12

発行　伊賀市教育委員会事務局　文化財課

〒518－8501 三重県伊賀市四十九町 3184 番地　　2020. 12. 11

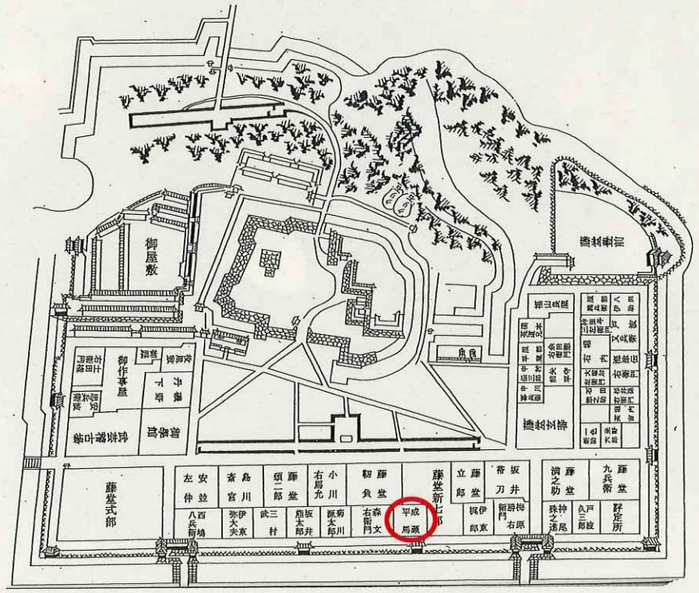
上野城跡（成瀬平馬家屋敷跡）発掘調査について

1．はじめに

令和２年 11 月 25 日から上野丸之内 29 番地（成瀬平馬家屋敷門裏）地内において、2022（令和４）年に開業予定の（仮称）忍者体験施設の建設に伴う発掘調査を実施しています。調査では、江戸時代末期の成瀬平馬家屋敷にかかわる建物跡などが発見されています。

2．調査概要

調査地は上野城の外堀の内側に位置し、外堀の内側は上級武士の屋敷地であったことが判明しています。調査地は、藤堂藩伊賀付家中の加判奉行を務めたこともある「成瀬平馬家」の屋敷地があったことでも知られ、屋敷地の南側には市指定文化財（建造物）の「成瀬平馬家長屋門」が今も当時の姿をとどめています。



上野城下町絵図　（嘉永７（1855）年）『絵図から見た上野城』福井健二 著 2010

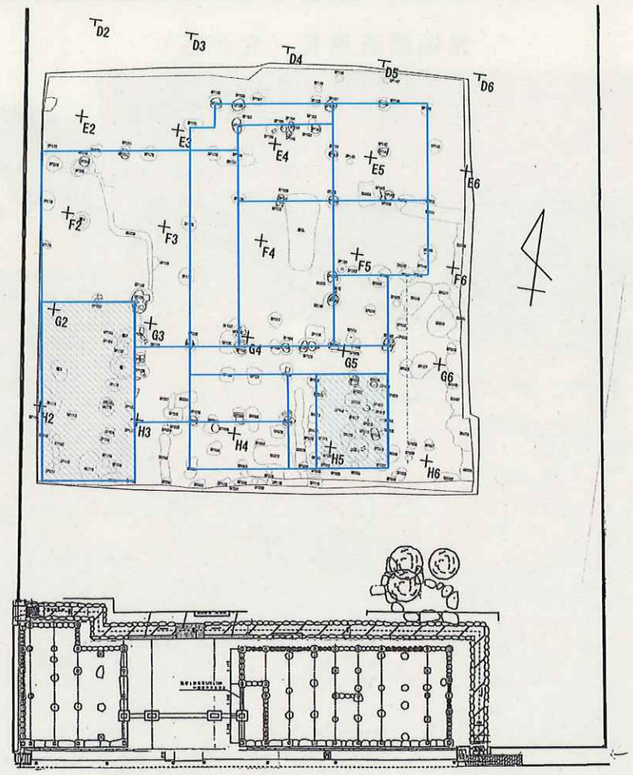
○調査の成果

調査では屋敷の建物の礎石（建物の柱を支える基礎の石）は数石を残してほとんどが抜き取られていることがわかりました。それらの礎石や抜き取り痕から屋敷は下図のように想定されます。この建物の柱と柱の距離はほとんどが約２ｍでした。これは江戸時代の長さの単位一つに「間（けん）」があり１間＝６尺５寸（1.98ｍ）が採用されていたためと考えられます。上野城では建物の多くがこの長さを採用して建物を建てていたことがわかっています。このことから上野城内武家屋敷地でも上野城と同じ規格を用いて建物が建てられていることがわかります。

調査地内の西側では赤く熱をうけた土とそれを覆うように黄色の粘土が見つかり、形状からカマドの痕跡であることがわかりました。（写真）またそのカマドの隣にも熱を受けた土が見えることから、複数のカマドがあったのではないかと予想されます。また、このカマドがあった周囲空間は土がたたきしめられていることから土間であったと考えられます。

出土した遺物の多くは瓦片、陶磁器片がほとんどです。中にはガラス片などもあり、明治時代以降に屋敷を解体する際に廃棄されたものと考えられます。

斜線部は増築されたと考えられる箇所



想定される建物配置図（1：250）

発掘調査風景（北から）

調査風景北から

カマド跡出土状況

木桶出土状況